

廃棄物減量等推進審議会会議 会議結果

会議名	第1回木津川市廃棄物減量等推進審議会 推進部会		
日時	令和元年7月16日(火) 午前9時から	場所	木津川市役所 第2北別館 2階
出席者	委員 ■…出席 □…欠席	■中尾委員(部会長)、■須内委員(副部会長)、■浅利委員(副会長)、 ■関河委員、■石田委員、■木下委員、■新井委員、■可知委員	
	その他出席者	傍聴人: 6人	
	庶務	市民部 滋井部長、山本次長 まち美化推進課 高味課長、中島係長、櫻井主事	
議題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 審議事項</p> <p style="padding-left: 40px;">① 市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査方法について</p> <p style="padding-left: 40px;">② 市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 確認事項</p> <p style="padding-left: 40px;">① 市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査結果について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>		

会議経過	部会長	<p>本日は、公私ともにご多忙のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、第1回木津川市廃棄物減量等推進審議会推進部会を開催します。</p> <p>5月の第1回審議会において、推進部会長を拝命しましたので、私の方で議事を進行させていただきます。</p> <p>本日は、補助金の提案審査が予定されており、あらかじめ申請者に各団体の開始時刻を案内しておりますので、ご出席の委員におかれましては、円滑な議事進行にご協力をお願いします。</p> <p>本日は、部会員8名中、過半数を超える8名にご出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。</p> <p>次に、議事録署名委員につきましては、部会長・副部会長を除いて名簿順に指名したいと思いますので、本日は浅利副会長をお願いいたします。</p> <p>早速、議事に入りたいと思いますが、携帯電話をお持ちの委員や傍聴の皆様におかれましては、電源をお切りいただくか、マナーモードに切り替えていただきますようお願いいたします。</p> <p>また、傍聴の皆様におかれましては、会議中の私語や拍手などの行為につきましては禁止となっておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、議事の1点目、審議事項①「市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査方法について」、事務局から説明願います。</p>
	中島係長	事務局説明省略（市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査方法について）
	部会長	事務局からの説明について、質問等ありましたら挙手でお願いいたします。
	関河委員	<p>ご説明ありがとうございます。質問は資料-1の4番目、審査結果の取扱いで、採択か不採択の基準が40点ということで、世の中の常識からすると半分もないのに大丈夫なのかな、と思うんですけど、なんで50点じゃなくて40点なのでしょう。</p>
	中島係長	<p>何点が良いのかという線引きにつきましては、様々ご意見あろうかと思えます。例えば50点にして、その50点が採択だという前提で、じゃあその50点を超えるように下回るようにという調整をされる場所もあろうかと思えますし、これは40点になっても同じ部分もあろうかと思えます。ですので、本日、審議会として50点を一つの基準にしようということでありましたら、そういった基準で取り扱わせていただいても結構かと思えます。事務局の提案の趣旨といたしましては、やはりあくまでも申請者の熱意をまずは大切にいただいて、こういった市民の発意に基づく市民主体のごみの減量と再資源化に対しての実践活動をできるだけ引き出していきたいという思いもありまして、40点という、ある見方をすれば比較的ハードルの低い設定をさせていただいております。まずは実施をしていただいて、その実施の結果どういった効果があったのか成果があったのかということは、各団体から十分に情報をオープンにいただいて、市としてもそういった成果を報告するような場も提供しながら、実際その成果を見られた市民の皆さんが後々ご判断をさせていただいて、実施団体としてもその反応を真摯に受け止めていただいた上で今後の活動に活かしていただければという思いで、まずはその熱意をできるだけ汲み上げたいということで40点というところを一つのハードルにさせていただきました。</p>
	関河委員	<p>ご説明ありがとうございます。趣旨はよく分かりましたが、このごみの事業で収益が出ていますけどこれは実質的には税金なんですよ。その税金の使い道としては、先ほどの考え方だと非常に甘い考え方ですよ。その甘いのはその事業によってごみ袋を有料化にして、そこから生じる、市は収益と言って</p>

	中島係長	<p>いましたけど税金ですね、その税金の使い方の基準が非常に甘いんじゃないでしょうか。今まで、木津川市は多様な事業に対して税金を出していますけど、なんだかそのような気がするんですが一貫したお考えはなかったんでしょうか。</p> <p>一貫した考え方ということではございません。今回のこの補助金について、先ほど申し上げたように、できるだけ市民の自発的な活動を引き出していこうという新しい制度創設の趣旨も勘案をさせていただいてこのような内容で本日は提案をさせていただきました。関河委員が仰るように大変貴重な財源であるということは間違いないことですし、その財源を市民がご負担されることについてどのようなお気持ちをお持ちかというのも昨年、有料化導入に際しての説明会等で我々も十分に認識をしているところです。ですので、この審議会としてやはりもう少し高いハードルを設定した上で審査をして、その結果をもって市にも取り扱ってほしい、取り扱うべきだということであれば、この場で50点というハードルを設定させていただいて結構かと思います。その点につきましては、審議会でもご議論いただきたいと思います。</p>
	山本次長	<p>今の関河委員の話の中で、得点につきましては資料-1に付けております審査表にも関連してくると思います。今、中島が申し上げたような観点からすると、得点区分が「やや不足」としてもそれを拾い上げていこうという観点でおおむね40点ということでございます。この得点区分のところ「やや不足」、また「やや不足」がないものは「普通」という得点区分を全部足していきますと48点になります。ですので、どの程度の得点区分・合計点に則って採択するかどうかにつきましては、40点50点ということだけではなくて審査表にも関わってくるようになります。</p> <p>例えば、審査表で「やや不足」の項目があったとしてもそれを採択していこうという判断であれば、「やや不足」のところのものと3段階評価のところにつきましては「やや不足」というものがないので「普通」という判断をしますとそれらは48点になりますので、50点が妥当なところかと思います。また、「やや不足」の項目があったとしても全ての項目が「不足」ということでなければ拾っていこうということであれば40点という判断になるのかと思います。40点が良いのか50点が良いのかということは、この審査表の見方も含めましてまずご議論いただかないと、物差しがないことには審査ができませんので、中島が申し上げましたように審査を行う委員の皆様方でご判断いただけたらと思っております。</p>
	可知委員	<p>確認なんですけど、まず、こちらの審査基準は公開されるものになりますか。</p>
	中島係長	<p>まず、本日の会議資料として公開されます。それと補助金の募集の段階で、審査においてはこういった視点で提案内容を審査させていただきますということで、この評価項目のおおむねの項目について事前に公表をしております。</p>
	可知委員	<p>であれば、関河委員からご指摘のあったような視点というのは、特に一般の方からすると一般基準として「4割でいいの」というご質問は多分あると思います。一般の方からするとやはりちょっと基準が甘いかないという方もいらっしゃる可能性があると思うので、例えば、ここについては今仰られたような市として特にこういった取り組みを積極的に推進したいのでこういう基準を設けていますとか、何らかのご説明をされるなどお考えいただいた方がよろしいかなと思いました。</p>
	部会長	<p>審査員の一人としては、今回初めてのことでございますし、まだ一般市民の</p>

	<p>方にも広く周知されていないと思います。その辺を踏まえて、その40点というのでやる気を高めてもらうということで制度が周知されれば、今後段々と申請件数が増えて既定の金額をオーバーするようになってくるかと思います。だから今回はこの40点を基準として、また今後の経過を見まして審査基準を我々審査員で審議するという方向にもっていかれたらと思います。いかがでしょうか。</p>
関河委員	<p>最初の事業なのでという気持ちは分かるんですけど、先ほど私が申し上げましたようにこれは税金なんです。その税金をそのような、初めてだから基準を下げてという考え方は、税金の使い方として私は反対です。山本次長がお話しになったように、この得点区分で「やや不足」というところがやはり分岐点だと思いますので、厳密に言うと48点以下が不採択、49点以上が採択と。これじゃあ何のための点数配分なんだ、基準なんだ、そんな「不足」のものに税金を使うということについては私は反対です。ただ委員の皆さんのご意見として、いや40点でいい、ということであれば、それに私は従いますけども、私自身としてはやはり48点を基準に審査すべきじゃないかと思います。</p> <p>最初だからといって基準を甘くして、後で増やすというのはこれはダブルスタンダードにあたると思います。</p>
部会長	<p>よく理解できました。40点から48、49点に上げるというのと40点でいくというのを、挙手で決めさせていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。挙手で決めるということに賛成の方は手を挙げていただけますか。[挙手確認]</p> <p>では、現行の40点のままでいくという方挙手願います。[挙手確認]</p> <p>ないようですので、これもちまして40点から48、49点に上げるということをお願いいたします。</p>
中島係長	<p>今、48、49点というところがありましたけれどもそこは明確に48点なのか50点なのかお決めにいただきたいと思います。先ほど山本次長から案内がありましたように「やや不足」と3段階評価の「普通」を全て足しますと48点ということになります。それでいいということであれば48点になりますし、やはり少なくとも一つは「優れている」ところがないと、ということであれば50点というのも一つの基準になってこようかと思います。</p>
部会長	<p>それでは、48、49、50点ということで一応案として出ましたので、挙手していただくということで決めさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
関河委員	<p>48点以上ですか。その48点があれば採択という意味ですね。</p>
部会長	<p>ええ、そういうことです。それぞれ挙手をお願いします。</p> <p>[挙手確認・50点多数]</p> <p>では、挙手をもって50点以上で採択と決定しました。この他、質問等ございませんでしょうか。</p>
中島係長	<p>1点だけ確認させていただきます。今の40点から50点へという採択の基準の引き上げにつきましては、先進のごみ減量モデルも地域内ごみ減量等活動も、いずれも採択の基準としては、50点以上を採択の対象とするということによろしいですか。</p>
部会長	<p>両方の配点が50点以上という方で確認させていただきます。両方だという方は手を挙げてください。</p> <p>[挙手確認]</p>

		<p>はい、全員一致で、両方とも 50 点以上で採択するという事で決定しましたのでよろしく願いいたします。</p> <p>では、本日の審査及び今後の地域型ふれあい収集事業の申請に関する審査については、こちらの基準に基づいて実施したいと思いますのでよろしく願いいたします。変更があったということです。</p> <p>では次に、審議事項②「市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査」に移ります。</p> <p>〈提案審査準備〉</p>
部会長		では、事業名「子ども」と「食」と「SDGs」の提案をお願いいたします。申請者の方よろしく願いいたします。
申請者		提案省略（事業名：「子ども」と「食」と「SDGs」）
部会長		説明が以上で終わりましたので質疑応答に移ります。提案内容に質問がある委員の方は挙手をお願いいたします。
副部会長		<p>こういう循環政策を考える前に一番最初に考えないといけないのは、ごみってなんだろう、何故ごみが発生するの、やっぱりそこをよく研究していただきたいですね。おおよそ 40 年くらいこういったごみの話聞かしていただいて研究やってきましたので分かるんですけども、必ず人間と一緒になんです。口から物が入って、これが口の中で食物を食べやすいように細分化していく。胃の中で半分溶かして腸を伝わっていく。最終的には尿と便となって出てくる。これが廃棄物ですね。これをいかに少なくするかっていうのが食品ロスと同じなんですよね。こういうの素敵ですよ。給食の堆肥化っていうのがありましたけども、ごみってなんだろう、何故ごみが出るんだろう、ちょっとそこが忘れちゃうんですよね。その辺をやっぱり指導していただきたいと思います。また、京大農場については私も前任の山本委員と一緒に色々話をしておりました。堆肥というのは簡単に始めますけどもなかなかうまくいかなくて、私も家で 2 年間やりましたが、家の外に出るとごみなんですけども家の中にあるとごみじゃないんです。従って、私は庭に埋めてしまいましたけども、基本的には使うことを放棄したものが外に出るというのがごみで、食品もそうですね。特に食品ロスはそういう感じです。それはちょっとしっかり指導していただきたいと私は思います。</p>
可知委員		質問なんですけど、中学校での講演会ということなんですけど、こちらの対象になる生徒さんは希望される方ですか、それともクラス単位や学校単位でこういった講演会をやるという感じでされるんでしょうか。
申請者		<p>ちょうど夏休みに入る時期ということがありまして、少しこちらの教育委員会の方にご相談をさせていただいてるところなんですけども、基本的には中学校でできるのかどうか、できない場合は大きな部屋がありますので京大農場の方で開催させていただこうと考えております。ご質問いただきました対象者というのは基本的には希望者を、というふうに考えています。夏休みに入りますので募集方法につきましてはもちろん工夫が必要だろうというふうに考えておりまして、子ども食堂さんですとか、あるいは京大農場では販売などもその都度やっておりますので、そういうところに案内を出させていただいて、その場合によっては木津川市さんのそういった方法を使わせていただいて案内を広めさせていただいて、希望者、もちろん保護者の方も含めて、生産者の方も含めてお呼びしたいと考えております。</p>

<p>関河委員</p>	<p>いくつかお伺いしたいと思うんですが、学校から出る食品残渣はどここの学校で生じているのでしょうか。木津川市で大体どれくらいの量の食品残渣が出ていて、今回はその何分の1ぐらいに該当するのでしょうか。それから、先ほど講演会の話がありましたけども、一般の方も参加していいのでしょうか。それから、なんでカリフラワーなんですか。実際にこれを事業として行うんですから、日常的には誰がその野菜の面倒を見るのでしょうか。</p>
<p>申請者</p>	<p>まず堆肥についてなんですけども、量についてはむしろ木津川市さんの方にお訊きいただきたいと思うんですけども、現在木津川市全ての小中学校の給食残渣が、費用が多く出て三重県の業者の方で全て堆肥化されるとお聞きしています。その堆肥をほぼ無料で木津川市におられる生産者の方にお売りできるというようにお聞きしているんですけども、給食残渣の堆肥に対しましては実際には生産者の方は少し気にされるところがありまして、それで利用が進んでいない、循環をしていないという状況であります。私たちが利用するのは100kg～200kgということで、量としては現在堆肥化されているものとしては大変少ない量ではあります。ただ、私たちは実は給食堆肥組成も見させていただいて、うまく使えるかどうかというところは現在検討しているところではあるんですけども、そこで講師の間藤先生にそういった部分の有機物の循環やこれぐらいちょっと追加の肥料を足してやれば上手に使えるんじゃないかということをお聞きして、量は少ないんですけどもそこを皆さんにお見せしたいというのが一番の理由です。</p> <p>続きまして講演会なんですけども、昨日今日そういった方に来ていただきました。SDGsってすごく難しいイメージがありますが、すごく分かりやすくご説明していただける方ですので、そういった方のお話をさせていただきたいと思えます。</p> <p>どうしてカリフラワーかということなんですけど、実はカリフラワーだけじゃなくてブロッコリーも検討しているんですけども、期間というものがありますので、この時期に栽培できる野菜ということで、カリフラワーを考えています。管理としましては京大農場の方で臨時職員さんがおられますので、そちらの方でさせていただきます。種まきと書いてありますけども時期によっては定植の方が楽しいかなと思っておりますが、中学生の方に募集をかけまして20名ほどで2,500株近くを、と考えています。</p>
<p>関河委員</p>	<p>カリフラワーの管理は子ども食堂なのかなと思っていたんですが。</p>
<p>申請者</p>	<p>最初のご意見にも関係あると思いますけども、子ども食堂さんは基本的に規格外の物を活用されて、そこは規格外の物であっても、見た目は悪くてもごみにはならないんだよという部分を示されたと思います。実際は廃棄される皮の部分なんか料理に使っていただくというような形です。</p> <p>私たちの方は、実は規格品の方は敢えて販売をさせていただこうと思っております。それは、植物堆肥を利用して農業で作ったものとそうじゃないものには差がない、ということを示せば示したいんですけども、そういった部分を皆様に見ていただきたいというのが一つの目標です。おそらく大学の売り場の方で販売させていただきますので、堆肥で作ったブロッコリーだったりカリフラワーですよということを示していきながら、そういった意味では生産者の方や消費者の方に啓蒙をしながら販売を進めさせていただきたいと思えます。</p>
<p>関河委員</p>	<p>その販売した収益はどのようにお使いになるのでしょうか。</p>
<p>申請者</p>	<p>今のところは大学の規則といたしまして、それを別な形に回すっていうのは</p>

	<p>できなくて、私たちのところに入るわけでもなくて、一応大学の方で販売したものは大学の方の収益というふうにさせていただこうと思っています。ただ、先ほどご質問がありましたように、通常管理というところで大学の方には大きな負担が実はありまして、そういった部分で大学の方に把握していただくという部分もあると思いますので、ご理解いただければと思います。</p>
部会長	<p>はい、時間となりましたので提案審査を終了いたします。申請者の皆様ありがとうございました。委員の皆様は審査表を記入してください。</p> <p>〈審査表記入・提案審査準備〉</p>
部会長	<p>では、事業名「生ごみ堆肥化」の提案を始めてください。</p>
申請者	<p>提案省略（事業名：生ごみ堆肥化）</p>
部会長	<p>ありがとうございました。では、質疑応答に移ります。</p>
副部会長	<p>私の経験からいくと1日1回攪拌をする必要があると思いますね。酸素を入れる必要があると思います。あと、もう一つは炭を入れるといいですね。それは雑菌や変な虫が入ったりしないんで、一度炭を入れられたらまた違う効果が出るんじゃないかと思います。それから、よく私も使ったんですけども、虫が集ってくるんですよ。これには木酢を使うと虫が寄ってこないことは前に話したんで、何かの時に試されたらどうかと思います。</p>
申請者	<p>貴重なアドバイスをありがとうございます。ただですね、これは嫌気性処理と言いまして、できるだけ空気と混ざらないような形の処理装置なんです。ですから炭を入れたり、色んなもので空気を攪拌するのはよろしくない。これを集めて処理場持って行って二次処理するときには好気性の環境でやりますんで、そのときに今仰ったような色んなやり方で空気を混ぜてやって堆肥にするということで、この段階では嫌気性処理、空気と混ぜてはいかんのです。</p>
関河委員	<p>ご説明ありがとうございました。いくつか質問です。堆肥を集積する集積所は、台風等が来て壊れるとこの事業は進まないと思いますが、その強度は大丈夫かということが一つ。それから、住民30戸で会を結成したいということですが、今現在どれぐらい共感している人がいらっしゃるのか。それから最後に、この運動を全市的に展開したいとなっていますが、具体的にはどのような方法で展開するのか、その辺の見通しをお答えいただけますか。</p>
申請者	<p>集積所の台風対策はどうかということですが、僕も土木建築には素人なんでその辺が心配なんですけども、今考えていましたのは、屋根の方はビニールハウスを使ってやりたいと思っています。その次に柱を30cm程度打ち込んで、風で飛ばないようにしていきたいと思っています。それから、下の方に四方を板で囲むんですけども、それは角柱を四隅にそういうふうに打ち込んで、下にブロックを敷いてということで、それからアンカーボルトもちゃんと入れましたんで、そういう対策をして台風が来ても持ち堪えるように一応考えてはおります。</p> <p>それから2番目の人員ですね。これを提案する前に募集したんですけども、今30戸のうちの半分くらいは応募していただきました。この審査ではっきり認可されて初めて本格的な活動をやりたいと思いますので、あとの15戸くらいについては、これが認可されたら第二次募集をやりたいと思っています。</p> <p>それから全市的展開はですね、今私は南加茂台というところに住んでまして、</p>

	<p>まずこれを6丁目の中でやって、これがうまくいったら15丁目まである他の丁目にも広げていくと。それがうまくいったら、加茂地域であるとか他の地域でやっていただいて、あちこちでやれるような形で全市的に展開できたらなあというふうに思っています。今は手作業でやれるんですけども、ある規模になりましたら手作業では追いつかないと思うので、その時には例えば重機で攪拌するような装置を導入したり、ある程度のをまとめてやっていけたらなあというふうに思います。</p> <p>それよりも大切なのは出口の方です。できた堆肥をどう活用するのかということ、十分検討しないといけないと思います。それである段階になりましたら、先ほど来られた京大の先生とか木津高校のシステム園芸科の先生とか、そういう専門家を入れて良質な堆肥を作ることの知恵をお借りすると。同時に、できた堆肥をどう活用するかということ、農家とか色んな方がおられるので、そういう方もプロジェクトに入ってもらってシステムを作っていきたいなあというふうに思っています。</p>
木下委員	失礼します。ちょっとお聞きします。私も一主婦なのですがいいなと思って。EMボカシとかは大分前から知ってたんですけどね。そのコンポストは一つずつ縦置きじゃないですか。で、生ごみを入れてっていうことなんだけど、その回収は1週間に1回くらいですか。
申請者	そういうふうに考えております。
木下委員	それで、今は30名くらいで生ごみ堆肥の会を作っておられるけれども、各家庭で生ごみの量がものすごく多いところも少ないところもあると思うんですけども、量が多く出るところの場合、もしかしたらもっと早くに容器がいっぱいになるっていうことはないんですか。
申請者	あり得ますね。
木下委員	あり得ますよね。そういう場合はどういう処置を考えておられるんですか。
申請者	家族が2、3人の家庭でしたら、普通は容器がいっぱいになるのに大体1週間かかると思います。今はこの容器を各家庭に2個ずつ無償貸与するように考えているんですけども、もっと量が出るような家庭には、それを3個に増やしたらというようなことも必要かなというふうに思っております。
木下委員	分かりました。もう一つ聞きたいんですけど、要するに堆肥ができて上がるじゃないですか。それは各家庭に持って帰ってもらって、草木とかお花とかお野菜を作っておられるところがあると思うので、まず今は、第一歩として、そういうところの堆肥にと考えておられる。そして、これからはそれをぼちぼちと南加茂台の各丁目に増やして行って、という感じにされるんですよね。
申請者	そうです。
木下委員	分かりました。ありがとうございます。
可知委員	ご説明ありがとうございます。お聞きしたいのは、このやり方を支えるシステムです。今お話で出たような処理場の場所とか回収される方とかそういったことを、どのようなところに作られてどんな形で回収されるようなイメージでお考えになられているのでしょうか。

申請者	今考えていますのは、会員になっていただくんですけども、その会員には二つありまして、一つはとにかく生ごみを出していただく会員です。その方は家の前まで出すまでが仕事。もう一つは、それを軽トラで集めて処理場に持って行って、色んなものと混ぜて堆肥化するという会員。作業を会員二つに分かれてやりたいと思っています。だから、そういう作業は会員にやっていただきたいなというふうに思っています。もちろんボランティアです。
可知委員	処理場はどなたかのお持ちの土地に作られるんですか。
申請者	今、あちこちの農家でもう耕作放棄してる農地がたくさんあるんで、そういうところを探して交渉してるんです。けれどもなかなか農家というのは保守的で、土を売るんじゃなくて貸すだけでも嫌がるんですね。で、今ちょっとアテにしていますのが、市有地があるんですけど、そこをちょっとお借りしてやりたいなど。そこはちょっと人家と離れてますんで、問題なからうというふうに考えています。
副会長	今の出口の話であったりとか、二次処理施設の場所もお聞きしたので、他の選択肢って何か考えられたのかというのをお訊きしたいなと思いました。例えば消滅型のやり方をされているような地域、「キエーロ」とか色んな名前です。そういう容器もあつたりするので、そういうやり方自体も試してもいいのかなという気はいたしました。もし、何かそういう他の選択肢とかも試されたり、可能性があるらしたら教えていただきたいです。
申請者	インターネットとか文献で色々調べたんですけども、今一番気軽にやれるのは今日提案したやり方かなと。例えば、近くの甲賀市でやっておられるのは、できた堆肥をまたさらに各家庭に配って、堆肥と生ごみとサンドイッチ状にするやり方らしいです。そういったやり方でもいいんだと思うんですけど、それだったら一度堆肥になった生ごみをまた分配し直さないかんですね。その作業はちょっと面倒だなということと、それから僕は今これを自分の家でもやってるんですけども、それは上手くいってるんで間違いはないかなと思いました。
部会長	はい、時間となりましたので提案審査を終了いたします。申請者の方、ありがとうございました。委員の皆様は審査表を記入してください。 〈審査表記入・提案審査準備〉
部会長	では、事業名「もってけドロボー蚤の市」の提案を始めてください。
申請者	提案省略（事業名：もってけドロボー蚤の市）
部会長	ありがとうございました。では、質疑応答に移ります。
石田委員	今まで、リサイクル研修ステーションの方にいたんですが、何故リユースを止められたんですかとよく訊かれるんです。なので、これをやっていただけたらと思います。これはお金はかかりますか。
申請者	無料です。
石田委員	無料ですね。そしたら、こういうところでやっておられるということを皆さんに話をしたら、喜ばれると思います。何でリサイクル研修ステーションはリユースを止めたんだと私に訊かれるので。この場所の2階にあるんですね。そ

		したら、私は良いと思います。
関河委員		いくつか、お伺いします。物は何を持ってきてもよろしいのでしょうか。もし基準があるんだったら、どんなものが基準になるのかということが1点目です。それから、チラシを市民に配ってという方法をされるようですが、具体的にはどういうふうに配るのか。千枚印刷するということですが、千枚で十分だとお考えなのかどうかというのが2点目。3点目は、何でもアートに変えることができるわけじゃないと思うので、どうしようもなくなったものはどのようにされるつもりなのか。この3つをお願いします。
申請者		1点目ですが、本当に難しいんですけどルールはあります。皆さん、蚤の市を頭の中で想像してください。1回目を開催したときは、あのような感じでした。前は、例えば、段差の変えられる椅子など結構古い物がありました。困ったなと思ったものも実はあります。でも、大きい籠とか困ったものも意外に持って帰られるのだなというのも思いました。発信の方法はチラシだけじゃなくてフェイスブック・SNSでもやってるんですけど、そうすると遠方の方から「これをキープしておいてくれ」と言われて「ご予約様」というのを貼ったものもありました。そこら辺は私たちの頭も柔軟にしていけないといけない。私たちのイメージというのは、レトロなものを格好いいと思う世代なんですね。だから、そこら辺を重点的に集めたいなと思うんですけども、それ以外のものでも、置いておいたら意外に持って帰られるので、そういうのが好きな方ももちろんいらっしゃるんで、そこら辺は柔軟的に考えなきゃいけないなと思っております。
関河委員		2点目は、チラシはまず千部で十分かということです。あと、どこに配るんですか。
申請者		千部で十分だとは思っていません。配るのは、知り合い、施設の近辺、スタッフの家の周りです。 3点目のアートにできないものは、正直なところ前は、最終的に選別して捨てました。でも、実を言うと、使えそうなものは倉庫をちょっとずつ整理して、次回に向けて、溜めております。その時に出会わない人もいらっしゃるんで、大きい額とかも捨てずにそのまま少しおいております。
副部長		今のお話を伺いましたが、倉庫に溜まると、また廃棄物になるんじゃないかという恐れがあるんですけど、それはいかがですか。
申請者		持ってきてくださった方に持って帰ってもらった物もあります。持ってきてくださった方に、「すみませんが、『もってけドロボー蚤の市』が終わりましたら、残っていたら持って帰ってください」というふうにお願いしております。
副部長		それからもう一つ。先程着物なんかも出てたんですけど、私が聞いた話ですけど、ブランド品の衣類はシーズンを過ぎると、安く売るのではなく焼却処分するんです。それを黙って引き取る方がいらっしゃる。そういう専門の焼却所へ行って、黙って引き取って、それを町内会で安く売っているというのがあるんです。そういうのは何か研究されましたか。
申請者		申し訳ありません。知識不足で、分かりません。
副部長		多分お店でも言わないと思います。それを専門にやってる焼却所、引き取り屋を一度インターネットで調べてみるといいです。

申請者	はい。ありがとうございます。
新井委員	講演会と書いてありますけども、8日近くされるんですか。
申請者	講演会をするのは1日だけです。支出予算内訳書の一番最初の外部講師の3日間というのは、リメイクしてアートに変えるという子どもたちとのワークショップです。2番目は、それについて物の大切さを学ぶ講演会。3番目は、今後、もってけドロボー蚤の市を3回やっていく予定なので、開催にあたってのアドバイザーですね。その後にリメイクのワークショップをします。
新井委員	リメイクアートは、講師謝金単価が12,000円、3日で36,000円。ということは、3日するということですね。次の項目は、単価が20,000円なので1日で20,000円ですね。その次の項目が、単価6,000円、3日で18,000円。合計7日間ということですね。
申請者	開会は、そうです。
新井委員	分かりました。
可知委員	1回で扱う点数というのは何点ぐらいですか。
申請者	前は回を数えていません。次回から数えたいと思います。前は結構な数になりました。
関河委員	これは事務局にもお答えいただきたいんですが、この「もってけドロボー」というのは、普通に言っている分には良いんですけども、市のお金が出る事業で、「ドロボー」という言葉はあまりふさわしくないんじゃないかと思うんですが。市としてはどのようにお考えでしょうか。
中島係長	市としては、あくまでも実施主体は民間の団体でございますし、キャッチーな意味合いを込めてこのような名称をお使いになるというのは各自の判断で、致し方ないことかなと思います。
申請者	少し、そこのところは考えます。
部会長	時間となりましたので提案審査を終了いたします。申請者の方、ありがとうございました。委員の皆様は審査表を記入してください。 なお、次の審査案件は、私が所属する団体からの提案であるため、先程確認した審査方法の除外規定を適用しまして、当該案件に関する審査が終了するまで、私は退席いたします。この間の進行は須内副部会長にお願いいたしますので、よろしく願いいたします。
	〈審査表記入・提案審査準備〉
副部会長	部会長が退席されましたので、4番目の審査案件につきましては、私、須内が進行させていただきます。 では、事業名「ミライへの第一歩 使い捨てない暮らし方へ」の提案を始めてください。
申請者	提案省略（事業名：ミライへの第一歩 使い捨てない暮らし方へ）

副部会長	<p>ありがとうございました。では、質疑応答に移ります。</p>
関河委員	<p>ご説明ありがとうございました。いくつか教えてください。この学習会というのは具体的にはどこで、100人集めるといのは大変だと思うんですけどどのような方法で人を集めて、予算はどれくらいみていらっしゃるのか。それから、サポーターの会と子どもエコクラブはどういう関係にあるのか具体的に教えていただきたい。そして、お茶を広めるのは大変結構だと思うんですが、最近家庭に急須がなくてお茶が入れられないので、その急須はどのようにして広めるのか。3点お願いします。</p>
申請者	<p>まず、学習会をどのようにするのかということですが、講師の方の話は、できればたくさんの方に来ていただきたいと思っておりますので、結構人数が入るいずみホールの多目的ホールを想定しています。なかなかたくさんは集まらないんですが50人くらいの人を集めて、リユース食器の利用は実際に祇園祭ごみゼロ大作戦とか大阪の天神祭にも広がっているので、その辺の仕掛けとかを聞く機会を作りたいと思っています。どういう人を対象にしようかということのももちろん一般の方なんですが、できれば商工会でイベントをされる出店者の方。それから、自治会などでも夏祭りとか色んなイベントをされると聞いていますが、中にはまだ使い捨て容器を使っていらっしゃる場所があると聞いています。だから、できればそういう方たちに少し広報をさせてもらって、実際来年度やってみようかなと思っている人をターゲットにまず学習会を考えています。</p> <p>それからもう一つ、お茶の入れ方講座プラス使い捨て容器をやめようという啓発イベントは、逆にイベントでお茶を入れる講座をしながら、どうしてこういうことをしているのかということと話をしたいと考えています、実は今、ペットボトルの普及が一番多いのは、お茶とミネラルウォーターなんです。そこにもちょっと意識をしていますので、こういうことをすると、これだけペットボトルが減らせるんだよという話を併せてさせていただくコーナーを考えています。それは、どちらかというと子ども、一般のお父さん、お母さん、イベントに来られる来場者の方、こちらの環境まつりの方は結構人がいらっしゃるということなので、そこも合わせたらターゲット100人くらいに行くかなという想定にしています。あとは学校での授業ができれば、子どもが30人から40人いますから、これももし保護者の協力をいただければ、何とか計100人くらいはいけるかなという想定をしています。その上で、費用の面もこの審議会の手帳に、会場費や発行誌の費用を載せているところです。</p> <p>子どもエコクラブとサポーターの会の関係ですけど、子どもエコクラブというのは、木津川市が、子どもたちが環境学習する場所を提供するというところで作っておられる事業です。木津川市が作られていますけれども、元保護者達を中心となっている我々サポーターの会が活動をしていく上での実際の細かな企画運営の方をやってるということで、別の独立した関係です。</p> <p>急須は、実際にエコクラブの活動で「急須を持ってきてね」というんです。そうすると、一度急須を買ってきたお家があって、それはちょっとな、と思ったんですが、私たちの感覚の急須と若いお母さんの感覚の急須とは違って、紅茶ポットを持って来られた方もいたんですね。だから、何らかのポットは家にあるし、それでやっぱり緑茶を急須で入れないと思ったら買ってくれると思うし、茶葉で飲まなくてもティーパックでもごみは減りますから、「急須ないねん」という方でも、まずお茶をティーパックに入れてそれから飲もうよということも言えば、絶対急須でお茶を入れなければいけないということでもないで、色んな方法でごみを減らす方法を考えようという提案やきっかけになると思っています。</p>
木下委員	<p>今、お茶のお話が出ましたが、私も女性の会でおいしいお茶の入れ方とか、</p>

		<p>色々やったんですね。確かに、今の子どもたちの家庭に急須はないかもしれない。でも、それを普及していくというのはとても大事なことだと思うんですが、急須でお茶を入れてまずお母さんが飲むという機会がね、どうなんだろうなというのをまず思います。すごくいい取り組みだとは思いますが、ちょっとほこった中で、急須でお茶を入れてみようか、おいしいね、というのが、子どもたちにも分かる、大人たちもそれを理解する。そういう部分で家庭で浸透していかないといけない。「急須持ってきてくださいね」「なければティーバックでもいいですよ」というのではなくて、やっぱり急須って必要だよって。ただ、何で必要なんだというのは皆様方がやっておられるその取り組みの中にあるわけだから、もう少しその部分でやっていかれた方がいいのかなという感じがします。やっぱり「おいしい」という急須で入れた味と、ペットボトルのお茶の味の差が少しでも子どもたちに分かってもらえれば、急須を普及していけると思いました。</p> <p>もう一つは、夏祭りでのペットボトルの量はもうすごいですね。木津川市の花火でも、この処理を私たちはどうしてやっていくのよ、というぐらい大変な量のペットボトルが出ます。そんな中で、時と場合によって、その時にはペットボトルが必要だし、この場合には急須もいいねという部分があると思います。すると、そういう時を利用して、私たちはこういうものに呼びかけてますというように形で、今やっておられる活動を出されてもまたいいのかなと思います。</p> <p>ただ、急須もそうだし、今のもそうだけれども、ちょっと長い目で見ながら、できるだけ家でほこった時のお茶のおいしい入れ方みたいなのところで続けていかれたら、もっと持続性が出てくるのではないかなと思います。</p> <p>副 部 会 長 私からちょっと一言お話ししたいんですけども、プラスチックの容器というのは容器包装リサイクル法というのがあって、できるだけプラスチック容器を減らそうとしているんですね。素材をできるだけバイオプラスチックとか紙に変えていこうという。実際にこの近辺の店舗で紙コップを見たんですけど、残念ながら内面をポリエチレンでコーティングしていますので、これはプラスチック。ところが、ある企業が野菜ジュースを売ってるんですけど、この容器がもっと強い容器で、実は紙なんです。内側がどうかというので分解してみたら、これはプラスチックじゃなくてバイオ関係のセロファンですね。これを使っていますので、あれは紙になってるんです。紙でありますから使い捨て利用できる。それから PET につきましては、これは 90% ぐらいは再生されています。皆さんが着ている衣類なども PET からできた繊維で作っていますし、今流行りの繊維も PET でできています。お茶を売っている入れ物はほとんど PET ですね。したがってこれは、分別するときラベルを全部剥がしまして、キャップも外してきれいに洗って分けて出しています。そうなりますと、捨てる部分がありません。これからどんどん材質が変わってきていますので、そういう意味の研究をされたらどうかなと思います。スーパーに行ったら、そういうのを意識して見てもらったら材質が変わってきてるなど分かりますね。</p> <p>申 請 者 参考にさせていただきます。</p> <p>副 部 会 長 時間となりましたので提案審査を終了いたします。申請者の方、ありがとうございました。次の審議は中尾部会長にバトンタッチいたします。委員の皆様は審査表を記入してください。</p> <p>部 会 長 〈審査表記入・提案審査準備〉 では、事業名「給食残渣の活用から目指す！食品ロスの削減と再資源化」の提案を始めてください。</p>
--	--	--

<p>申請者</p> <p>部会長</p> <p>関河委員</p>	<p>提案省略(事業名:給食残渣の活用から目指す!食品ロスの削減と再資源化)</p> <p>ありがとうございました。では、質疑応答に移ります。</p> <p>ご説明ありがとうございます。この事業で処理しようとお考えになっている調理残渣はどれぐらいの量を見込んでいらっしゃるのかというのが1点。それから、木津高校に持ってこられた後の実作業は、この農業クラブの人たちがやるということでしょうか。あともう一つ、購入備品で散布機を購入されて散布されると思うんですが、これの動力はガソリンなのでしょうか。ガソリンならばガソリンを購入しなければいけない。その費用が漏れているんじゃないかと思いたしますがいかがでしょう。</p>
<p>申請者</p>	<p>1点目は、堆肥の量ですね。大体4tと書きましたが、2t車で2杯から3杯。体積で表すと8m³ぐらいになると思います。給食の残渣も、どれぐらい出るのかという資料は私のところにはありませんけれども、おそらくそれに類するぐらい、人数も増えましたし1、2tは排出されてるのではないかなと思います。今どういうふうにしているかというのは、実は処理業者の方に尋ねました。そうすると、残渣を処理して、一次発酵をさせて、バラでならいつでも対応できますよという話でした。それから肥料分析も出されていて、グローバルGAPの基準で変なものが入っていないかという検査があるんですがその安全性もクリアになってますので、これならうちの量は賄えるかなと。聞くところによるとちが賄いきれない量の堆肥がまだあるような話も伺いましたので、十分な量はあるかなと判断しております。</p> <p>2つ目は農業クラブの関係なんですが、農業クラブの生徒自身は学校内の土壌で野菜を生産するというスタイルなっていますので、1年生、2年生が中心となってその事業を行います。畑全面約3反、30a全部に使いたいと考えております。</p> <p>機械はガソリンではなくてトラクターの据え付け部品なので、トラクターは本校にありますので、ただ単に引っ付ければ終わるという形です。</p> <p>ゆくゆく将来、「よし、そうしたら給食残渣を使って私の畑で、田んぼで、そういう事業をやりたいな」という方には散布機をお貸しできるかなというふうに思います。そうすると、散布の手間も随分省けますし、バラで業者の方も持って来られる、そうすると余計なコストがかかなくなる、しかも堆肥が循環できる、ということを見越して農業クラブのこういう形で考えました。</p>
<p>可知委員</p>	<p>今回の予算で半分ぐらい占めているのが、袋入り食品リサイクル堆肥の配布ですね。1個740円のものをお無償で配られると思うんですけど、効果は啓蒙できる感じですか。配布の方法とかは何かお考えになられてますか。</p>
<p>申請者</p>	<p>実は、情報企画科の生徒と一緒に、栽培した野菜をパッケージを添えて販売をするという取り組みを行っています。それはABCマーケットという名前なんですが、そこで、給食の残渣からこういうふうに堆肥ができるんですよと、これを有効に利用すれば、捨てるもの、燃やしているものも資源として活用できますし、それがまた地元の土を良くしますよ、というような形でPRをしたい。ただ単に袋に入れて「どうぞ」というふうでは見栄えも悪いので、パッケージとかを情報企画科がデザインする形でやりたいというのが希望です。</p> <p>それと併せてなんですが、木津川市の小学校で木津小学校、城山台小学校が、農業科見学という形で体験授業もありますので、そういったところでも児童に、「みんなの給食の残りがこのようになるんですよ。でも、食べ残しを資源にするような方法もあって、それでできた野菜がこれですよ。」というような説明を行</p>

	<p>いたいと思います。</p> <p>ただ、ゆくゆくは、本来なら家庭のごみがきちんと家庭内で処理できたり、地域で循環できる道ができれば最も理想だなどは思うんですが、そこには大分ステップがあるから、今回は通常のはっきりしたごみの給食でという形で行いたいと思います。</p>
新井委員	<p>もう1回確認なんですけど、給食残渣を業者さんが引き取られて、そこで処理された堆肥を購入されて、それで野菜を作られるということですね。そして、作られた野菜をABCマーケットで販売されるわけですね。そうしたら、収入が上がると思うんですが、その収入はどちらに入るのでしょうか。</p>
申請者	<p>農業科の学校はほとんどそうなんですけど、京都府の土地で栽培を行っているので、そこで得られた収入は京都府の府費として納めて、納めた分、種とか肥料とかの購入資金が返ってくるような仕組みになっていますので、全て京都府に納めます。</p>
副部長	<p>2日前にテレビで学校給食の場面が出ていまして見てましたら、結構量が多いんですね。弁当箱いっぱいに入ったご飯とカレー、それに牛乳とみそ汁。小学校4年生、5年生はあんなに食べるのかなと思うんです。昔は学校の給食室で給食を作ってたから量を制限できたんですけど、今は給食センターで作ってますから、画一的ににどんと持ってくるんで、本当に生徒が食べられる量だけ持ってきているのかどうか、その辺の調査がもう少し必要じゃないかなと。</p> <p>要は、堆肥を作るのが目的じゃなくて、ごみの量を減らすのが目的ですから、減らす方法を色々研究しながらやられたらどうかと。食品ロスもそうですよね。大型スーパーの何ヵ所を回って消費期限が切れそうなものを探してみたら、結構ありますね。店の人にそれをどうしているか訊いたら、全部焼却場に持って行って処理するんですけど言っていました。だから、こういうのは結局無駄なことになってるんで、そちらの方をまず研究していったらどうかという感じがするんですけど、いかがですか。</p>
申請者	<p>仰るとおりで、小学生等にその辺の呼びかけをするアンケートとか、取り組みの実態調査とかを、学校に来ていただいた時、それからこちらからの出前という形でやっていこうと考案はしております。</p> <p>これのデメリットは、給食がおいしくなって食べ残しが少なくなると給食残渣がなくなって、堆肥が少なくなってしまうということです。それがデメリットかどうかという変な話なんですけど、実際にはそのような形で運用するよりも、堆肥ができませんでしたという方がもちろん良いのは良いので、究極はそうなってほしいなと思っています。</p> <p>現実問題、木津川市で出た行き場のないものが他府県に流れて行ったり、放置されたり、またはせっかく堆肥になっても利用できないという現状があるなら、少しそれはもったいないかなと考えて、これをやっていくという形です。</p>
部長	<p>申請者の方、ありがとうございます。それでは、委員の皆様は審査表を記入してください。審査表の記入が終わり次第、11時20分まで休憩とします。</p> <p>〈審査表記入・休憩〉</p>
部長	<p>休憩前に引き続き、審査を再開いたします。</p> <p>書類審査の一つ目の案件について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
中島係長	<p>提案省略（事業名：手仕事でリサイクル）</p>

		<p>この内容につきまして、申請受付時に聞き取っている範囲で、ご質問等ありましたら、お受けさせていただきます。</p>
部会長		委員の方、質問等ございませんでしょうか。
関河委員		質問は、何故、牛乳パックなのかということです。牛乳パックは資源ごみとしてはかなり高額なものなのに、何故、牛乳パックに注目したことをお考えになったのか、そこがよく分かりません。
中島係長		実は、着目をしておられる牛乳パック、新聞、古布の3つは資源ごみでありまして、こういった活用がなされなくても資源としてリサイクルが可能なものでございます。ですが、比較的加工がし易いので、捨てない習慣を体験して習慣付けていく初めの第一歩として、子どもさんたちも加工がし易いやすいものに着目をしたということで伺っております。
部会長		他に質問がなければ、審査表の記入をお願いいたします。
		〈審査表記入〉
部会長		事務局から2つ目の案件について説明をお願いいたします。
中島係長		提案省略（事業名：環境施設のバス見学会）
		この内容につきまして、申請受付時に聞き取っている範囲で、ご質問等ありましたら、お受けさせていただきます。
部会長		それでは、委員の方から質問はございませんでしょうか。
副部長		中間処理場というのは、南京都清掃社以外にこの近辺にあるのでしょうか。
中島係長		木津川市のごみが持ち込まれている場所といたしましては、相楽郡精華町内にあります高井商店というところと、木津川市加茂町内にあります三重中央開発におきましても、ごみの中間処理は行っております。
副部長		どうやってごみを処理しているかが異なるケースがあるので、南京都清掃社以外にそういうところも併せて行かれたら、勉強になるだろうと思いますので、推薦したいと思います。
中島係長		今、3つの施設を申し上げたんですが、2つの施設に関しては一部の分別のごみだけを中間処理している状況です。南京都清掃社につきましては、木津川市が分別収集している全ての分別のごみを中間処理をしている状況になります。
関河委員		事務局への質問になりますが、この提案が認められたとすると、私のところもと、地域から今後たくさん提案があるかと思えます。今回これを認めることで、今後は同様の提案が出たら全て認めるというポリシーでしょうか。それによっては、審査の答えが違ってくると思うので、参考のために聞かせてください。
山本次長		今、仰ったように、この案件が出てきたときに、そういったことが懸念されるのではないかとということで、事務局の中で話をさせていただきました。この

		<p>られてごみ出しの支援が現実問題としてできない、というようなことでは、対象者にも迷惑が掛かってしまいますので、実動されるメンバーがしっかりと確保されているのかどうか、ということです。</p> <p>市が、申請書類と提出時の面談でこの4点を確認をした上で、随時判断をさせていただきたい。この4点全てを満たすものについては、補助金の対象としていきたい、ということで考えています。そして翌年度、事業の実績につきましては、審議会の方へ報告事項としてしっかりと報告をさせていただく。その対象が良かったのかどうか、確認方法がどうだったのかというあたりは、事業の評価として市にお声を頂戴できればと思っております。以上、この確認項目についてご意見を頂戴できればと思います。</p>
関河委員		<p>これで補助金が認められて、具体的にはどんな補助金の内容を想定されているのでしょうか。あるいは、限度額などがあれば教えてください。</p>
中島係長		<p>4月に先進的ごみ減量等モデル事業と地域内ごみ減量等推進事業を募集するときに、こちらの地域型ふれあい収集事業も同時に募集自体はしております。内容といたしましては、全てのごみの分別、全ての収集日にごみ出しをお手伝いいただくという前提の下、対象者1世帯あたり月額3千円を交付させていただくというものになっています。ですので、年度途中で始まれば、その後の月数、また年度途中で世帯が増減したということにつきましても、月割りで月額3千円でご支援させていただくという内容で、現在制度設計をしております。</p>
部会長		<p>他に質問がなければ、今、提案があったやり方で地域型ふれあい収集事業を進めていってよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。</p>
		<p>[挙手確認] ありがとうございます、賛成多数となりました。</p>
中島係長		<p>ありがとうございます。そのように市の方にも報告をさせていただいて、取り扱いをさせていただきたいと思います。</p> <p>ここで一つ提案がございまして、先程、審査の方法のところでも申し上げたんですが、この補助金は交付を決定する場合でも、こういった条件の下で実施をしてくださいという条件を付すことができます。特に、先進的ごみ減量等モデル事業について、やはり先進的な事例として、市内、もしくは市の外にまで広く情報発信してモデルとして活用していただくというのが大きな目的でもございます。</p>
		<p>この先進的ごみ減量等モデル事業について、実施事業の他の地域への普及促進であるとか事業効果の検証のために、本年度補助事業が完了した後、例えば来年の5月から6月ぐらいの来年度の補助金の募集期間等に合わせて、今年度の補助金を受けて活動された団体から成果報告会というようなものを開催していただいてはどうでしょうか。実際、お金を交付された結果、どういうことにお金を使って、どういう効果があったのかということは、我々、採択・不採択に関わった者としても是非とも知りたいところだと思いますし、紙の実績報告書やデータを提出していただくだけでは十分語りきれない部分もあると思いますので、市民にも開かれた成果報告会を市で用意させていただいて必ずそこには出席してください、としてはどうかと考えています。そして、広く情報発信をしてもらって、後進の育成というほどではないですけども、市内の他の活動のお役にも立つように成果をPRしてほしいということで、そういった成果報告会の開催と、そこへご出席いただくことを一つの条件としてはどうかということで、事務局として考えております。皆さんはどのようにお考えでしょうか。</p>
部会長		<p>質問等はございませんでしょうか。</p>

委 員	〈異議なしの声〉
部 会 長	異議なしという声をいただきました。
中島係長	では、採択の対象になる案件につきましては、こういった条件を付けさせていただいて、交付決定をする方向で進めてまいりたいと思います。
副 部 会 長	地域型ふれあい収集のことで、一言お願いします。 今、私が住んでいる南加茂台は、47%が65歳以上の方で、独居生活している方が、数字は分かりませんがかなりいまして、孤独死をされた方が私の家の並びに10軒のうち2軒ございます。これらも早期発見、あるいは防止するために、ごみが収集日に出ているか、出ていないかの収集状況がどうなっているかを定期的をチェックするということがやはり必要で、町内会ではお互いに気を付けてやりましょうということでやっています。これからどんどん高齢化していきますし、特に男性が独居生活しますと外に出なくて、ごみがものすごく溜まるんです。ごみが溜まっているかどうかをどこで区別するかというと、カラスが飛んでるんです。カラスが家の上を舞っているところは大体危ないというふうには私どもは見ておりますので、地域型ふれあい収集はもっともっと広がっていきたいと思っております。
部 会 長	須内委員の方から非常に見識の高い広範囲な観点でのご意見を賜りましてありがとうございます。 それでは、皆様方の机上に審査結果が配布されましたので、確認事項「市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査結果について」の説明に移りたいと思います。
中島係長	事務局説明省略（市民提案型ごみ減量活動等補助金の審査結果について） 本日いずれの案件も、補助金の上限額の範囲内で採択が相当ということで市への報告をさせていただくのですが、最後の「環境施設のバス見学会」につきまして、もし来年、類似案件が出てきたときにどうするか、というところを少しだけこの場でご議論いただければと思います。やはり、1件ずつ必要性や内容を議論する必要があるので、補助金として提案をしていただいた上で審査対象にするべきだということか、あるいは、補助金が採択になったということは一定の事業効果としては委員の皆さんにお認めいただいたということかと思っておりますので、もっと効率的に実施をするために市の方で何回か機会を設けてこういったツアーを開催してはどうか、その上で補助金の対象からは外すということを明記をしてはどうか、ということも一つだと思っております。おそらくこの二者択一かと思うのですが、少しご議論いただければと思います。
部 会 長	それでは、「環境施設のバス見学会」の申請に関してご意見を賜りたいと思います。
関河委員	審議会としてはこの事業を採択したわけですから、これ以降は市が何回か機会を設けて実施してはどうかと思います。あまり芳しくなければやめたいし、ニーズが強ければ毎年実施すればいいと私は思います。
部 会 長	この環境施設の見学というのは、やはり居住する地元だけでなく、広い範囲で情報を集めて、色んなところで事例を伺えるという機会が必要だと思いますので、また今後、その辺の運用のことは皆様方との会の時に議論を進めると

	<p>新井委員</p> <p>山本次長</p> <p>部会長</p> <p>中島係長</p> <p>部会長</p> <p>滋井部長</p>	<p>いうことでいかがでしょうか。</p> <p>現在は新しい施設がありますが、見学は随時受け付けておられるのでしょうか。</p> <p>随時受け付けさせていただいております。ただ、団体さんが重なってしまいますと対応ができませんので事前予約という形をとっておりますが、基本的に随時受付をさせていただいております。ちなみに、昨年度見学に来ていただいた人数といたしましては、昨年9月のオープンからこの3月末までで843人ということで、900人近い方に来ていただいているということでございますので、できたばかりですけれども、市民の方々の関心は高いのかなと思っております。</p> <p>それと、先程の審査結果の発表時に備考欄を説明させていただいておりますので、簡単に説明させていただきます。備考欄につきましては、審査していただきました最高点と最低点を記載しております。56点で採択というところの解釈といたしましては、こういった環境施設のバス見学会というのは必要かもしれないかもしれませんが、採択基準の50点を大きく下回る20点といった採点をいただいている方もおられますので、逆に言うと、補助金としては馴染まないのではないかとのご意見もあったのかなということと解釈しております。今後、この取り扱いにつきましては、今いただきましたご意見をもとに検討していきたいと思っておりますし、他のところにつきましても最高点と最低点が開いているところがございます。そういったところにつきましても今後、この事業を評価する上で、こういった形で評価していくのかを事務局の方でも少し検討してまいりたいと思っております。</p> <p>今回、第1回目の審査会でございまして、色々得るところが多かったと思います。時間がありましたら、今後の改善点などを事務局の方で簡単なアンケート等をとっていただいて、次の環境施設見学会の時に情報化するという時間も設けていただけたらと思います。</p> <p>その他、事務局から報告等ございませんでしょうか。</p> <p>1点だけ簡単に報告させていただきます。</p> <p>委員の皆さんに環境施設の見学会の日程調整をお願いしておりましたけれども、調整の結果、8月28日（水）午後1時から午後4時15分までを予定して開催をさせていただきます。この日程で今一度、出欠報告のご案内をさせていただきますので、お願いをいたします。</p> <p>それでは、予定していた議事は以上ということで、本日の会議は終了いたします。市民部長の方からご挨拶がございますので、よろしく願いいたします。</p> <p>〈部長挨拶〉</p>
<p>その他 特記事項</p>		